

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム竹とんぼ	評価実施年月日	平成19年11月20日
評価実施構成員氏名	岡 正子 ・佐藤 香里 ・岩田 浩和 ・野島 真理子 ・佐藤 友美 ・高橋 百合子 ・布澤 彰子 ・片桐 知香子		
記録者氏名	岡 正子	記録年月日	平成19年11月20日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	明確な理念を作成し、スタッフルーム、玄関風防内に掲示している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎月行われるスタッフ会議で議題として取り上げる等話し合っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	どなたでも見やすい位置に掲示し、家族には入居時に説明して、運営推進会議等でも話の中に取り入れる等している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	4、5に共通し近隣の施設、教育機関等に働きかけ密な付き合いにより、地域の施設としてあるよう努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	4、5に共通し近隣の施設、教育機関等に働きかけ密な付き合いにより、地域の施設としてあるよう努めている。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	現在取り組んではないが、運営推進会議等を基盤に介護予防教室などを企画したいと考えている。	○	現在取り組んではないが、運営推進会議等を基盤に介護予防教室などを企画したいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を良い刺激にし改善点を見つけ取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在4回の運営推進会議を行っているが、活発的な意見にてそれを生かしたサービスにしよう努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村に問い合わせはしており、市町村からの要望が有る無いに関わらず共にサービス向上のために取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	今後、地域包括支援センターへの依頼によりスタッフ会議等で定期的に研修をおこなうようにする。	○	今後、地域包括支援センターへの依頼によりスタッフ会議等で定期的に研修をおこなうようにする。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修などで学び、また、スタッフ会議でも内容を再び確認し努めている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約には時間をかけ、理解してもらいやすい様している。また解約時も親切丁寧な対応をし安心されるよう心掛けています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	13、15に共通し、ポスターを掲示し苦情ボックスを設置するなどして、グループホーム内での対策委員会もすぐに活動出来るようしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	便りや健康診断結果の作成、送付や面会時の密な連絡、電話連絡により個々に満足される報告を心掛けている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	13、15に共通し、ポスターを掲示し苦情ボックスを設置するなどして、グループホーム内での対策委員会もすぐに活動出来るようしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月スタッフ会議において職員の意見や提案を聞いて反映している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員の増員をし、利用者の心身の状況や要望に対し勤務時間を変更するなど柔軟な対応をしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	最小限の移動により、利用者、家族に安心される様にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内外の研修により実施し、ケアの質、向上のために日々話し合われている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域のグループホーム連絡交流会に参加し、連絡を取りやすいよう努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	特別休暇や併設している介護老人福祉施設の親睦会への参加などにより軽減している。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	勤務状態報告書により毎日のスタッフの出勤を確認し、実績を把握している。また、ケアスタッフからの連絡によっても把握している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所までの段階で情報を出来る限り集め、入所後も集めた情報をもとに本人から聞き、さらなる情報へとつなげるようしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所申込み時に家族の時間が許す限り悩みや、相談の話を聞くようにし、入所後も継続して支援出来るようしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	当グループホーム申込み時には他施設の入居申込みも勧めており、家族が柔軟に対応出来るようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	馴染める空間造りをするこもし、必要に応じて家族との外出、外泊によって安心感がある生活になっていくよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	1日の中でまんべんなく喜怒哀楽を出せる雰囲気にし、過去の話などを題材に信頼感を持てる関係造りに努めている。又、バーベキューや夏祭り、誕生会、クリスマス会など様々なイベントにて共に楽しめるようしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者本人の1番の理解者は家族だという理解により同じ方向性で、関係を築いており、家族もグループホームに来られた際には、くつろいで、利用者と共に楽しんでもらえるように様々なイベントに参加をしてもらっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族との関係をスタッフ全員が理解、共感し入居後も変わらぬよりよい関係をもてるよう援助している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人が大事にされてきた関係をよりよくするため、訪問されたときの援助や手紙でのやりとりなどで関係を維持継続している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	過ごされる場所等に留意し利用者同士が快適に過ごしやすい様努めている。利用者同士の関係のあり方も把握している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	なじみの関係をしているため、契約終了後も度々訪問されたり、イベントにお誘いしたりとしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしく過ごして頂けるよう、好みや意向を把握し、把握するよう努めている。また適切にそれらを提供できるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にこれまでの生活歴、好みなどをライフヒストリー表に記入してもらい把握に役立てているとともに、入居後も会話の中に織り交ぜ把握することに努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日、定時のバイタルチェックをすると共に、顔色や、表情、行動などの細かい変化に気を付け、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族に希望をお聞きすると共に、スタッフ会議などで意見を求め、それによって、介護支援専門員が介護計画を作成している。また、作成した介護計画についても再度検討をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態が変化した場合、その都度ご家族に確認し、スタッフ間での話し合いにより変更したものを作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の記録(ケース記録)により実施し、情報共有のためのノートもあり役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族や本人の要望に応じ、遠くへの外出など柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近隣にある教育機関と気軽に連絡できる関係において、支援をお互いにしている。また、消防による避難訓練などで、連絡体制も整っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて他のサービスと連携がとれるようになっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて地域包括支援センターと連携がとれるようになっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	併設の介護老人福祉施設の看護職と医療連携体制が整っており、入念に健康管理されるとともに、協力病院においてもすぐに医療活用が出来るようになっている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	嘱託医が精神科の医師であり認知症にも詳しい為、診断や治療を受けることをしている。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	併設の介護老人福祉施設の看護職と医療連携体制が整っており、入念に健康管理されるとともに、協力病院においてもすぐに医療活用が出来るようになっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	協力病院において連絡を密にし、情報交換等を家族、医師、スタッフとで話し合うことによって安心できるように、また、早期退院にむけて努めることをしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	必要に応じて家族、医師、スタッフとで話し合うことをしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	必要に応じて事業所において出来ること出来ないことに対し家族、医師、スタッフとで話し合うことをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	環境が替わることによる影響をスタッフは理解しており、情報交換等をつうじて支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	理念に掲げているように尊厳のある生活を援助しているため、言葉や記録の取り方にもスタッフは留意している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	その人らしく過ごして頂けるよう、好みや意向を把握したうえで、個別に合わせた支援をしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人らしく過ごして頂けるよう、好みや意向を把握したうえで、個別に合わせた支援を柔軟にし、日課的なものを計画しないようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人が好んで行っていた店に行けるような支援をし、本人にあった色合いの服を用意したりとおしゃれをしてもらっている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	その人にあったことをしてもらおうと共に、食事も楽しんでもらえるよう一人一人にあった食事内容になるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の嗜好を把握し必要に応じて提供している。またタバコは決められた場所で吸って頂くようにし、灰皿に水を入れておくなど火災予防にも留意している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表により個別の排泄パターンを把握している。おむつなども必要時以外は使用しない等習慣を生かした排泄をして頂けるようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日は決めておらず、体調や状態にあわせて入浴してもらっている。お湯の温度や入浴時間なども個別に合わせて提供している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個別に合わせて支援している。様子や状態に合わせ気分良く休んでもらえるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活の中での役割の必要性をスタッフは理解しており、簡単な役割を適度にやらせてもらえるよう声掛け等で促し支援している。またやらせてもらったことに対して感謝の意を伝えることによって喜んでもらい次につなげるようにもしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人がお金を所持でき、気軽に使えるように支援している。金銭を家族より持たされた場合は報告してもらい預かり金として、預り金台帳等書類に残すようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物や、ドライブ等戸外に出かけることを行っている他、地域の催し物にも参加している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	計画性が必要なことではあるが、家族の協力も得ながら支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じて、また、促しにより電話連絡出来るよう支援している。また、家族より贈り物が届いた際にはその日のうちに電話して頂くよう援助している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や知人、友人がグループホームに来られた際には、くつろいで、利用者と共に楽しんでもらえるようにコーヒーお茶などをお好きな物を出し、また様々なイベントに参加をしてもらえるよう声掛けもしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	緊急やむを得ない場合(切迫性、非代替性、一時性)以外は、身体拘束は出来ない事を研修を通じて学び実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関には自動ドアの開閉時に耳障りにならない程度の鈴がなり来客、入居者の出入りが確認出来るようになっている。また、夜間のみ防犯の観点で施錠している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	スタッフは意識的にホーム全体を見守り、入居者の動向をつかず離れずの姿勢で見守っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬や清掃用薬剤、刃物等は保管場所を定め、必要に応じ施錠で管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	リスクマネジメントについての研修会に参加しており実施が出来ている。また消防による火災予防、消火訓練、防火管理者の資格保有者もスタッフのなかにいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	スタッフ全員が普通救命講習を受けており緊急時のマニュアルも作成されている。また、入居者に体調不良者がいて、夜間1名の対応困難時には遅出、早出スタッフの連携により緊急に備えるように取り組んでいる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域的に消防、警察、自衛隊による避難態勢が整っており、定期的な訓練にも参加している。また、スタッフは非常口、消火器の設置場所も把握している。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	必要に応じ家族には報告し、理解をしてもらっていると共に、スタッフ会議等で話し合っ対策をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックを行い、わずかな変化も見逃さないよう努めている。異変がある場合には連携している看護師や、嘱託医に報告し対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別に内服薬情報提供書を作成、保管しており副作用、用法、用量を理解しており服薬時も確認を絶えず行っている。(名称確認・スタッフ間での声掛け)		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	個別の食事量、水分量を把握し、毎日ではないがレクリエーションの要素を取り入れた運動をおこなっている。また、水溶性食物繊維の補助食材等も使用している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食ごとに個別に合わせた口腔ケアを促し、必要に応じて声掛け、援助を行っている。また、義歯が治療を要する状態の場合、歯科受診により対応している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日のケース記録に食事量、水分量を記入する項目があり個別に合わせて把握して提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成しており、その都度、対応出来るようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日夕食後には台所、調理器具の除菌消毒を行っており、食材もその日使う物を併設している介護老人福祉施設の管理栄養士管轄の厨房よりもらうようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先には季節の花や飾り付けをし暖かい雰囲気になっている。また、車椅子の方でも気軽にお越し頂けるようにスロープも設置している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホームのリビング内には5カ所のくつろげる空間を作り、少人数でも一人でも居心地よく過ごされるようにしている。またホーム内において観葉植物を置いたり、春から秋にかけては季節の花を置いたりとしている。飾り付けによっても季節感を演出している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホームのリビング内には5カ所のくつろげる空間を作り、少人数でも一人でも居心地よく過ごされるようにしている。必要に応じ、ついたて等を使用することもできる。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に、混乱しやすい認知症高齢者の特質を説明し、今までの家庭環境に近い部屋づくりを提案して、本人が今まで使っていた使い慣れたものをと家族に説明している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気扇や窓開放による換気により空気のだよみが無いよう留意している。また必要に応じ消臭スプレー等を使い対応している。室温は湿温度計により確認しスタッフの体感温度よりも高めに暖房器具を設定している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	加齢による身体機能低下を踏まえたホーム造りがされており、要所要所に手すりが設置されている。また、滑り止めの加工がされた手すりもお風呂場には設置している。他、洋式便器は一般の便器より低い物を使用、過去の生活習慣を踏まえ一カ所和式便器もある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	月日、曜日、時間がわかりやすいよう至る所に時計、カレンダーをおいている。また、よく使うトイレや、個々の自室には、大きく見やすい場所に表示をし、表札、顔写真による、掲示もしている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダや、玄関先にはベンチを数個設置し天気の良い日には風に当たったり日光浴ができるようになっている。また、菜園や、花畑もあり土に触れることも出来るようになっている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）